SPMT ニュースレター　第１５号
2026 年１０月１日



南太平洋医療隊

South Pacific Medical Team

郵便番号：332-0016　住所： 埼玉県川口市幸町 3-8-14

ホームページ：http:spmt.jp

南太平洋医療隊：Facebook　https://www.facebook.com/spmt.jp/

2026 年 8 月 7 日～8 月 16 日
２０２６年８月８日～15 日

読者の皆様へ

2026 年度は 8 月に遠藤眞美、片庭思歩がフィジー経由でトンガ王国に訪問しました。歯科室のスタッフと共に、幼稚園、小学校でのマリマリプログラムへの参加、高校付属の保健センターに訪問しました。障がい者施設では Mango tree center、OTA、ALONGA を訪問いたしました。訪問診療にも参加しました。

保健省歯科室ではシシリア歯科部長を中心に、幼稚園や小学校から始まったフッ化物洗口による予防活動の「マリマリプログラム」を発展させています。診療室での歯科診療にとどまらず、地域における保健・医療活動に取り組んでいます。歯科スタッフは約 50 名が在籍し、南太平洋の島嶼国の中でも最大規模の歯科医療体制へと発展しています。

＜小学校でのマリマリプログラム＞







8 月 7 日～8 月 16 日

- 参加者： 遠藤眞美(歯科医師)、片庭思歩(歯科医師)、
  歯科スタッフ：シシリア（歯科部長）、マフィ（デンタルセラピスト）、リオ（ドライバー）、アンティ、他マリマリチームスタッフ

＜マリマリプログラム（口腔保健を中心とした予防プログラム）小学校の同行＞【8 月 10 日，13 日、１４日】

10 日：Veitongo 小学校、Vaini 小学校、Longoteme 小学校、FOLAHA 小学校、Atele 小学校

13 日：Maufanga 小学校、Hilliard memorial 小学校

14 日：Free Wesleyan 小学校，ACTS Community Schools，Queen Salote 小学校，他

マリマリ専用巡回車が校舎に近づくと生徒たちが歯ブラシとペットボトルを持ち元気に一斉に走って校舎から出てきました。生徒の代表が前に出ると、その動きを見ながら順番通りに歯磨きやラジオ体操で声をあげながら楽しく行っている様子が印象的でした。

＜幼稚園でのマリマリプログラム＞



＜マリマリプログラム（口腔保健を中心とした予防プログラム）幼稚園の同行＞【8 月 1 1 日】

Veitongo 小学校内の幼稚園を訪問し，マフィが紙媒体での歯磨きの必要性やう蝕予防方法を説明し、31 名の児童に歯科健診と歯磨きを用いてのフッ化物塗布をしました。う蝕リスクが高い園児にはサホライドの塗布を実施しました。口腔内環境は良好な園児が多いですが、一部の園児には重度乳歯う蝕が認められました。

＜障がい者施設＜Mango tree center＞



＜ 障がい者施設歯科健診、保健指導、および歯科治療＞【8 月 11 日，8 月 1 3 日】

・Mango tree center：8 月 11 日

参加者の主な障がいは，脳性麻痺 6 名、自閉スペクトラム症 1 名、水頭症 2 名でした。口腔内の環境は個人差があり、う蝕は 4 名、歯肉炎は 8 名に認めました。保健指導では，個人に合わせた歯ブラシ選択や選択基準の説明をしました。 脳性麻痺の方には保護者に姿勢への配慮として抱っこの仕方等を指導しながら、摂食嚥下時における舌の役割の説明やトレーニング方法を実践しました。

・OTA 訪問：8 月 13 日

ダウン症候群 5 名、知的発達症 2 名、自閉スペクトラム症 1 名、弱視 2 名と他の計 15 名およびスタッフに対して歯科健診を行いました。OTA は新型コロナウイルス感染症の影響により数年にわたりプログラムを中止していましたが、4 月から通所し、コロナ後の初の歯科健診となりました。1 名を除いて、歯肉炎、歯周炎、う蝕があるという状況でした。健診後、口腔内環境が 1 番良好だった人にベストアワードとして歯磨剤をプレゼントしました。その後、デンタルセラピストのマフィを中心に歯磨き指導を行いました。

＜OTA 利用者の歯科受診＞



・ALONGA：8 月 15 日

脳性麻痺 10 名を含む計 14 名の歯科健診を実施しました。5 名の方の口腔環境はとても良好で、4 名にう蝕を認め、歯石がある方が多かったです。健診後、それぞれにあった歯ブラシの大きさ、形、ブラッシング方法などの指導を行いました。

＜ALONGA 入所施設＞



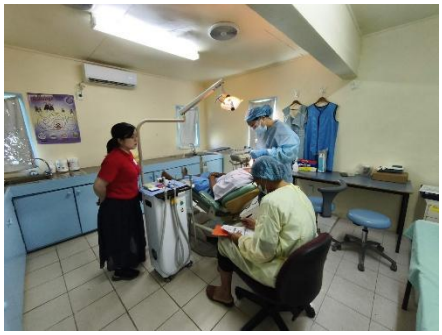
＜'APIFO' OU COLLEGE 高校付属保健センターでの歯科治療＞【8 月 12 日】

トンガの高校には、小規模保健センターがあります。歯科治療が出来るように資器材が整っており、歯科治療（ユニット）と滅菌室もあり、歯科以外の医療にも対応ができます。

デンタルオフィサー、デンタルセラピスト、デンタルアシスタントが各高校を 2 週間ずつまわっていきます。学年を決めてスクリーニングをし、治療が必要な場合は治療の必要な部位と内容を書いた手紙を渡して保護者からの同意を書面でもらい、予約治療を行います。同意が得られない場合は、個別にバイオラ病院に来院し診療を行います。

午前時は、4 名の生徒には乳臼歯や第一大臼歯の抜歯治療でした。午後は、次のクラスの口腔内診査を全員に実施しました。診査後、治療計画を立て親へ同意書を渡し次回から治療を開始するという流れで行っていました。口腔内環境が良好な生徒が多かったものの、一部の生徒でう蝕治療や抜歯が必要な生徒が見られました。

＜高校＞



＜訪問診療＞【8 月 12、14 日】

歩くことができない高齢者に対して、歯科技工士による義歯の咬合採得（かみ合わせ決め）と、仕上がった義歯をセットする訪問歯科診療に同行いたしました。最終義歯がセットされた日には、「若く見える！」ととても喜ばれている姿が印象的でした。

＜日本大使館訪問＞【8 月 13 日】

岩崎参事官等との面会し、South Pacific Medical Team と Ministry of Health との協力についてなどお話し、今後についてもお伝えしました。保健省の歯科部長 Sisilia 先生も参加し、日本への感謝を述べられました。

＜訪問診療＞



＜在トンガ日本大使館＞



～今後の予定～

1998 年から南太平洋医療隊は、フッ化物洗口と保健指導を中心とした学校保健活動 MALIMALIPROGRAM を行っています。トンガ王国保健省バイオラ病院歯科室は、2023 年に南太平洋地域の WHO（世界保健機構）アワードに応募し、「THE WHO HEALTHY ISLANDS BEST PRACTICE RECOGNITION」を受賞しました。

マリマリプログラムの継続・発展に必要不可欠なフッ化物洗口剤について、トンガ王国が自立して調達できる体制の構築を、WHO の協力のもとで進めています。

フッ化物洗口剤の安定した自国調達・供給システムが確立されれば、トンガ王国のみならず、他の太平洋島嶼国や世界の発展途上国における、予防を中心とした歯科保健の発展にもつながるものと期待しています。

この体制の確立には、まだ多くの時間と取り組みが必要ですが、将来的な自立に向けて、着実に実現していきたいと考えています。

文責者：河村康二